

認知症基本法施行を受けた取組と課題

武久 洋三



日本慢性期医療協会

JAPAN ASSOCIATION OF MEDICAL AND CARE FACILITIES

「認知症」は疾患名である

この度、2024年1月1日に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の条文を改めて読んでみた。

普通は最初に疾患の原因や診断、治療や予防の項目が並んでいるが、この基本法には、施策、社会的対応など、始めから認知症という疾患が固定された概念で動かさないものとして、その事実に対しての対処的政策が全般に記されている。

「認知症」は疾患名である

私も内科医として仕方なく、患者の訴える症状等に対する対症療法に終始している。

専門家としては、学問的に確固たる診断や予防には一家言はお持ちだと思うが、私の知る限り、認知症の特効薬は見当たらない。

「認知症」は疾患名である

かなり昔に認知症治療薬が大々的に売り出された時は、これで認知症が治るかもしれないと期待したが、未だ何の効果もないのではないかと
思わざるを得ない。

最近、新しい薬が発表されて藁をもつかみたい人達を喜ばせているが、
あまり期待できないように思ってしまう。

「認知症」は疾患名である

一般には新薬が認可されるのは十分な頻回のダブルブラインドの結果により信頼性を得られるものであり、それにも拘らず十分な効果が出ない薬剤は処方医として疑心暗鬼になる。

一度認知症と診断され、治らないのであれば、認知症にならないように予防に専念しなければならない。

「認知症」は疾患名である

いろいろなタイプの原因があるが、それぞれにいろいろな予防策を想定し、それについても二重盲検を行い、有効な予防策を決定してくれると一般臨床医としては大変助かる。

対象となる患者数には事欠かない。

何とかお願いして、今や最大の国民病としての認知症と対決したいものである。

「認知症」は疾患名である

年齢による老化や低栄養、脱水、脳細胞の活動不足、運動不足、薬剤の副作用や医療による人為的老化など、いくつもの原因が考えられるだろうが単一ではない。

認知症基本法に近い将来、医学的原因や予防が診断法や治療などについても大幅な頁をさけるように期待したい。

良質な慢性期医療がなければ
日本の医療は成り立たない



日本慢性期医療協会
JAPAN ASSOCIATION OF MEDICAL AND CARE FACILITIES